

• CONFIDENTIAL



Beyond
Next
Ventures

博士人材の採用・活躍について

Beyond Next Ventures株式会社
代表取締役社長 伊藤 毅

2024年12月18日(水)

経済産業省

博士人材の民間企業における活躍促進に向けた検討会

目次

- 自己紹介と会社紹介
- 当社の博士人材の採用状況
- ディープテックスタートアップにおける博士人材の活躍

note

🔍 キーワードやクリエイターで検索



Managing Partner
CEO
TSUYOSHI ITO

伊藤 毅



研究者がもっと輝く社会を創りたい。僕がいまnoteを始める理由

♡ 85



伊藤 毅

2024年12月2日 10:42

...



Beyond
Next
Ventures

経営理念

社会課題の解決・科学技術の発展・幸福の追求

ディープテックスタートアップへの出資を通じた社会課題の解決、科学技術の商業化を通じた次世代への資金循環の改善、そして、エコシステムに関わる全ての人々の幸福を追求します。

MISSION

卓越した挑戦者たちと、その先の社会を創る

研究者、起業家、私たちのエコシステムに関わるすべての卓越した挑戦者たちが構想する未来の実現に向けて、世の中の想像を超えるグローバルエコシステムを創っていきます。

会社名	Beyond Next Ventures 株式会社
事業内容	1. ディープテックスタートアップへの出資 2. 大学や研究機関等が有する技術シーズの事業化支援 3. 経営チーム組成支援、経営人材の育成
代表者	代表取締役社長 伊藤 毅 代表取締役 植波 剣吾
設立	2014年8月12日
本社	東京都中央区日本橋本町3-7-2 MFPR日本橋本町ビル3階
子会社	Beyond Next Ventures India Private Limited (インド/ベンガルール)
メンバー	約30名
運営ファンド	Beyond Next Ventures1号投資事業有限責任組合 Beyond Next Ventures2号投資事業有限責任組合 Beyond Next Ventures3号投資事業有限責任組合
無限責任組合員(GP)	Beyond Next Ventures 株式会社およびパートナーで構成されるLLP
運用総額	約480億円
出資先社数	82社

創業当初から着実にファンド規模を拡大させ、累計約480億円のファンドを運用しています。
ディープテックスタートアップへの出資とエコシステムの構築を通じて、挑戦者を後押しします。

運用総額

約**480**億円

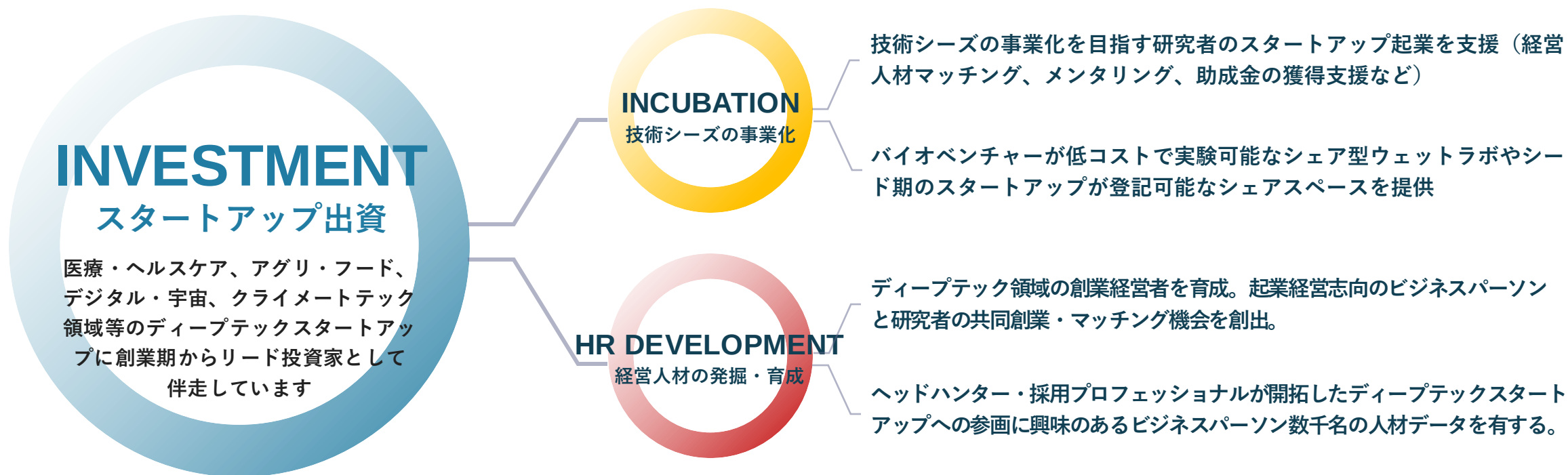
投資社数

82社

(2024年12月時点)

2015	2月	1号ファンドを設立し、投資開始
2016	8月	ディープテック特化型アクセラレーションプログラム「 BRAVE 」を開始
	12月	1号ファンドを当初のファンド目標額を上回る約55億円で募集を完了
2017	4月	「 INNOVATION LEADERS PROGRAM 」を開始
	10月	VC業界では初の有料職業紹介事業の許認可を取得
2018	6月	創薬バイオに特化した アクセラレーションプログラム「 Blockbuster TOKYO 」を開始
	10月	2号ファンドを設立、投資開始
2019	2月	シェアラボ「 Beyond BioLAB TOKYO 」を東京の日本橋に開設
2020	1月	インド・ベンガルールに子会社「 Beyond Next Ventures India Pvt. Ltd. 」を設立
	7月	起業家と投資家向けのシェアスペース「 B-PORT 」を開設
	12月	2号ファンドを当初のファンド目標額を上回る約165億円で募集を完了
2021	2月	日本初、研究領域における起業家とVCの共同創業プログラム「 APOLLO 」を開始
	2月	INNOVATION LEADERS PROGRAMが第3回オープンイノベーション大賞 文部科学大臣賞を受賞
2022	9月	パートナーを4名体制に強化（伊藤、植波、橋爪、有馬）
2023	3月	3号ファンドを設立、投資開始
2024	7月	3号ファンドを当初の目標金額を上回る257億円で募集を完了

ディープテックスタートアップが成長しやすいエコシステムの構築を目指し、継続的な資金提供に加えて、技術シーズの事業化支援、経営人材の育成、シェアラボの運営など幅広く活動しています。



2023年に設立した3号ファンドは、従来のファンドより期限を1年長く設定し、1社への最大累積投資額を最大20億円に引き上げました。これにより、シードからグロースフェーズまでファイナンスを牽引します。

革新的なサイエンス/テクノロジーにより、地球規模の社会課題を解決する



医療・ヘルスケア

デジタルヘルス
超小型・モバイル医療
機器、遠隔医療、デジ
タルホスピタル



創薬・バイオ

ゲノム編集技術
マイクロバイオーム
再生・細胞医療・遺伝
子治療



アグリ・フード

代替タンパク質
新規農業資材
スマートアグリ



デジタル・宇宙

半導体、AI、ロボット、
メタバース、量子コン
ピューティング、宇宙



クライメートテック

電池
次世代エネルギー
カーボンニュートラル

「チャレンジする全ての人の踏み出す一歩を後押ししたい」「少しでも多く、有望な技術シーズをもつ研究チームと共に社会実装を実現したい」そんな強い想いで、BRAVEは2016年にスタートしました。



Break new ground

Revolutionize your idea

Accelerate technological progress

Venture to be extraordinary

Empower your team



経営チームの補強を行い、初期段階の事業戦略・事業計画の策定をサポートするとともに、資金・ネットワークの獲得機会を提供します。経営人材・専門家・キャピタリストが伴走し、ディープテック領域での創業を後押しします。



計10回の開催を通じて、全国の大学・研究機関の研究シーズを有する160チームの事業化を支援。50社以上が卒業後に起業を実現し、卒業生の累計資金調達額は500億円を超えています。



(2023年12月時点の実績値)

2016 Winter	2017 Spring/Winter	2018 Summer	2019	2020	2021 Spring/Autumn	2022	2023
							
19 採択	36(15/21) 採択	19 採択	15 採択	13 採択	18 採択	5 採択 / 45 支援	35 採択

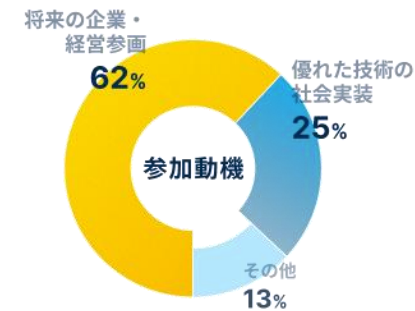
※当社が主導的な立場で運営した全てのアクセラレーションプログラムにおける合計数

研究領域最大の経営人材育成プログラム。優れたビジネスパーソンに、創業前の研究者とのマッチングと擬似的な創業体験機会を提供。累計参加者は500名以上に達し、出資先の創業経営者を含め50名以上の経営者を輩出。

研究領域最大級。卒業生500名のうち50名以上が
ディープテック・スタートアップ経営陣として活躍



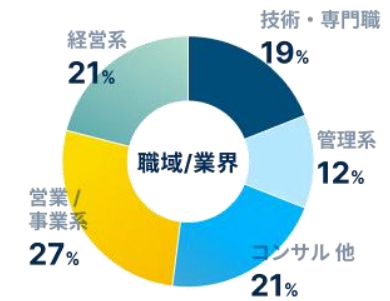
参加OB・OGのスタートアップCXOを対象とした
ILP CXO SUMMIT (第2回目) (2023年8月実施)



参加者の60%以上が起業志向



投資先の創業経営者を輩出



多様なキャリアの方が参加

第3回 文部科学大臣賞
研究領域を対象にした、創業経営人材育成・輩出プログラム
「Innovation Leaders Program」

Beyond Next Ventures 株式会社
伊藤 毅 様
Beyond Next Ventures 株式会社
鷲山 昌多 様
株式会社デンソー
奥田 英樹 様

株式会社OPE・PARK
本田 泰教 様
三井不動産株式会社
植田 俊 様



第3回 JOIP 文部科学大臣賞 受賞

目次

- 自己紹介と会社紹介
- **当社の博士人材の採用状況**
- ディープテックスタートアップにおける博士人材の活躍

当社でベンチャーキャピタリストとして 活躍中の博士卒メンバー



Karthik Varada 博士（工学）インド投資担当
インド工科大学(IIT)ハイデバラード校 卒業。東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了。在学中は修士課程でインパクト投資、博士課程でESG投資を研究。2022年9月にインドスタートアップの新規投資、既存投資先の支援・インパクトの可視化、日印連携に従事。



松浦 恭兵 博士(医学) 国内投資担当
早稲田大学 先進理工学部 応用化学科 卒業。東京大学大学院 医学系研究科 分子細胞生物学専攻 博士課程修了。在学中は腎結石治療法、腫瘍溶解性ウイルス療法の研究開発に従事。2022年4月に医療・デジタルヘルス領域のキャピタリストとして当社に参画。



矢藤 慶悟 博士(工学) 国内投資担当
東京理科大学大学院 先進工学研究科 生物工学専攻 博士課程修了。在学中は国立感染症研究所で肝炎ワクチンやウイルスに対する免疫応答の研究に従事。2022年4月にバイオ・創薬領域のキャピタリストとして当社に参画。

- 22年新卒採用メンバー3名**全員**が博士
- 専門知識だけでなくトランスファラブルスキル（専門知識以外の業務スキル）を評価し**研究分野を問わず**博士人材を採用

博士人材の専門スキルや強み

- 博士号を持っていることで研究者からの信頼を得やすい、ネットワークを作りやすい
- 特定分野に対する専門知識を持ち、最先端の研究に対する理解がある
- 共同研究や学会発表などを経て、研究者や大学とのコミュニケーションに長けている
- 投資や科学に関する博士課程で培った専門知識を業務に活かすことができ、特に学術論文や特許などを精査し客観的に評価することができる

トランスファラブルスキル

- 自ら課題を発見/仮説立て、検証するなど自走する力がある
- 研究を通して思考体力が鍛えられており、難解な課題に対してもやり抜く力がある
- 論理的/客観的に物事を分析する力に長けている
- 高速でPDCAサイクルを回し行動を改善する力がある。
- あらゆる業務において理解/学習が早い

目次

- 自己紹介と会社紹介
- 当社の博士人材の採用状況
- **ディープテックスタートアップにおける博士人材の活躍**

採用対象	・ 少数精鋭の即戦力ニーズ高く中途採用中心 ・ 最新の研究に触れていた経験と柔軟かつ論理的な発想を評価して、新卒を積極的に採用している企業もあり
採用経路	・ 博士の専門知識活かす機会が多いため、特定の研究室とつながりを持ち、そこから採用している ・ 博士の専門知識以外のスキルも評価している企業が多く、専門分野が異なっても採用している企業は多い
採用職種	・ 主に研究開発部門での採用 ・ 専門知識以外のスキルを評価され、ビジネス職での活躍事例もあり
採用フロー	・ 採用前に数か月間のインターン（就労体験）を実施 ・ 技術への理解を測るためにレポートで評価する企業もあり
評価ポイント	・ 知的好奇心の高さ、キャッチアップの速さ、理解度 ・ 自らの専門領域に過度に固執せず高い学習意欲があること ・ インプットがうまく、先行文献等から必要な情報を入手し、成果に繋げる能力が高いこと

※出資先のディープテックスタートアップ6社（さかなドリーム、Acompany、Red Arrow Therapeutics、ファーマランタ、ライノブラックス、Symbiobe）にヒアリングを実施

- Beyond Next Venturesは、博士人材は今よりも、もっと社会で活躍する可能性が高いと信じており、日本社会で科学者や研究者が若者から憧れる存在にしたい
- 日本は博士人材を未来の社会のリーダーとして育成・輩出すべきで、そのための養成・トレーニング（コミュニケーション/リーダーシップ/マネジメント）を大学でしっかり行う必要あり
- 博士人材が社会で活躍するために専門以外のスキルにも目を向ける・伸ばす必要あり
- ディープテックVC・スタートアップでは、博士人材は専門性と専門以外のスキルが評価され即戦力として活躍しており、有望な就職先
- 博士進学に学生がもっと魅力を感じてもらうために、社会、アカデミアが博士を特別扱いすべきでは（例：全博士進学者の授業料全額免除と給与支払等。1.4万人/年*300万円*3年＝約1300億円・・・国家予算の約0.00114 % 民間博士の報酬水準の見直しも）